

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102188		
法人名	株式会社アイケア		
事業所名	グループホームあいの街篠ヶ瀬(西 ユニット)		
所在地	静岡県浜松市東区篠ヶ瀬町345		
自己評価作成日	平成24年11月10日	評価結果市町村受理日	平成26年12月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2013_022_kami=true&jiyosyoCd=2277102188-008&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成26年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節事に行事や外出をしたり、飾り付けをしたりして一瞬だけでも季節を感じていただけるよう努力しています。又食事は三食手作りにて安全で安心馴染みの味を提供しています。常に来られる外来者からはどこよりも元気な施設との言葉をいただきます。笑顔の多い施設だと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“この仕事は気づき、を信条として「小さな体調変化も見逃さない」「早期発見で早めの処置」に徹し、例えば朝夕2度の検温は体温チェックシートに運動し細心の注意を払っています。そのため平均介護度3.7という重度化の局面を迎えながら本年度は退去者もなく過ごせています。朝礼の申し送りは管理者も立ち会い、時にミニカンファレンスとなるほど「いつから」「その原因は何か」と分析が行われケアの連続性に繋がりました。入院して食事が摂れなくなった人に「私たちが何もしなければ命が尽きてしまう」とユニットの隔てなく全職員で向き合った成果が元気な笑顔に変わったことは何よりも職員の励みとなりました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて理念 社是の唱和を毎日している	事業所理念として「笑顔の見えるケア」を掲げています。利用者の課題解決のためにはユニットを超え全職員が集まって考えようとするチームワークがあり、「笑ってもらえるから頑張れる」という言葉に理念の反映が覗えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩途中の挨拶、祭への参加等日常的に交流している。	散歩に出ると「声でわかるよ」の言葉がかかり日常的な挨拶があります。単独外出にも「歩いてたよ」と連絡がもらえ助けられています。地域の祭りに合わせた事業所秋祭りも4年目を迎え、休憩所として屋台が立ち寄る中、本年も250余名で賑わいました。	「ささえあいポイント事業所」への登録によりボランティア受入れが拡がることを期待いたします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談に来られた人には対応し、常に散歩等で、触れ合うことで理解してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においてはその時々施設の状況の発信をしている。又町内会、包括 市役所からも情報をいただいている。	区役所、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、家族をメンバーに定期開催しています。活動報告、行事食の試食会ほか介護保険情勢、虐待問題、独居世帯の見守りと多方面に渡り、それぞれの立場から地域の現状を話合っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ出席いただき事業所の取り組み実績についても理解して頂いている	運営推進会議には毎回出席があり、更新手続きを含め都度窓口を訪ねています。介護相談員の来所もあり職員と異なる視点で利用者の様子を知らせてくれます。市の「ささえあいポイント事業所」に登録しボランティアを受入れています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については研修を毎年行っており朝礼時日々の業務の中で、報告、相談を受けその都度伝えている。	研修を実施していますが、ミニカンファレンスでもある朝礼を重視し報告内容から具体的な指導をおこなっています。座位が不安定でありながら車椅子を自走したい人のリスクを検討し、動線を確認したり行動を予測することで自由な暮らしを支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議にて徹底しその都度注意指導している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項の説明をし利用者や家族の不安に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、または運営会議の折には話し合い意見をお聞きし、希望に沿うように取り組んでいる。	行事への参加率が高く、また運営推進会議への出席もあり、「お任せします」との声が大多数です。重度化したことで小さな体調不良は必ず知らせています。「出来ることは自分でやらせてほしい」という意見もありケアプランに取入れています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞き機会を設け、反映させている	月1回の会議の折 又毎日の朝礼時意見提案を聞き反映させている。	朝礼の申し送りは情報共有と意識統一のために時間をかけ、ユニットを超えた意見交換がなされています。排泄用品を見直して経済的負担を軽減したり、食事介助者が増えたことから柔軟性をもって休憩を取り協力し合っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。有給 希望休の確認をしている。労働時間においては、オーバーワークにならないよう気をつけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修 外部研修への参加を促している。又折に触れ場面場面に指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加、近くの小規模又はサ高住への見学、交流情報交換をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント作成時には必ずお会いして状況確認をし、傾聴している。その後職員に伝達し、共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時見学時キッチンと傾聴し要望等に耳を傾けている。その都度連絡し理解いただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時傾聴し様子見をさせていただき支援方法を共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用者は信頼関係を築き共に楽しみ安心して生活できる環境作りに励んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族はいつ来ていただいてもよい状態にありイベント時には積極的な参加をいただいている。そのときどきにご要望があればお聞きして関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	イベント時家族知人に積極的に参加してもらい関係の継続に努めている。又常にもお越しいただいている。	家族に付き添われ美容院に通ったり買い物に出かける人、娘にカットしてもらう人もいます。在宅の頃からの新聞を購読したり好きな晩酌を続ける人もあり、思うように出来なくなった編み物も職員と毛糸の手触りを楽しむことでサポートしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が積極的に間に入りアクティビティー時外出時お互い支えあってもらっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年間を通しあまり終了する関係はないが、ご相談があればご支援している。又過去に入所していた方の葬儀等にもご連絡いただければ参加している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で希望があれば残しておき職員が共有し又危険が無い時には自由に好きな所に行けるようにしている。	「肉と魚、どちらにしますか」などAかBかの選択で、本人の意向をより明確にしています。体重が減少傾向にあった利用者に好みの食べ物を聞き出し、体調を取り戻した例もあります。言葉による把握が困難な場合でも表情や行動から判断しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシート フェースシートにきちんと記載 確認しつつ共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々キチンと経過記録をつけ 朝礼時に報告共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、モニタリング、ケア計画書等により共有し現状に即したサービスができるように努めている。	半年ごとに見直していますが重度化により食欲が落ちたり体調変化も激しいため、都度精査しています。毎日の経過記録、生活管理表、入浴確認表を参考にケアマネージャーがプラン化し、全体会議と朝礼でも全利用者のカンファレンスがありモニタリングに繋げています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録 生活管理票の記入をし職員間で共有している。連絡ノートも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ柔軟な支援をし時には家族にも協力していただき取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの協力、地域の人々の協力、公園の活用、大型スーパーへの散歩等安全で豊かな生活ができるように工夫している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診希望の方は往診していただき受診希望の方はなじみの病院に行ってもら。緊急を要する場合には、職員にて対応している。	全体と個別、それぞれ毎月の往診があり、24時間相談ができ点滴にも駆けつけてもらえるため16名が協力医に変更しています。日常の健康チェックから気になることは早急に家族に伝えていきます。専門医は受診をお願いしていますが顕著な状態変化には職員も同行しています。	朝夕2度の検温は体温チェックシートに連動し細心の注意を払っています。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医の方が多いのでその都度相談し予防に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	カンファレンスをし状態の共有をして家族に向けても発信共有している。ご利用者にとつて最善となる方法を皆で探す。	重度化に際しては医療の必要性、家族の希望、職員負担を見据え事業所に対応できるか様々なリスクも考慮し、家族の判断を大切にしています。“食べられる、飲める、ことを基準に心身状態を見極め、夜間でも管理者が電話対応してくれる心強さがあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網、マニュアルの整備をしている。研修にて共有や夜間は施設長が24時間対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の元防災、火災訓練している。地域との協力体制の強化を図っている。	消防署立ち合いも含め年2回おこない、運営推進会議には地域の避難場所としても発信しています。外への避難では歩行困難や耳の遠い人をいかに効率よく安全に避難できるかが課題です。近隣からは有事には駆けつけてもらえる関係ができています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	守秘義務に基づいたプライバシーの保護や人格の尊重、言葉使いに注意している。	法人接遇研修を内部研修に落とし込んでいます。社会人一年生には「友達言葉は使わない」呼び方は「さん」付けを基本として「傾聴して相づちをうち、否定をしない」を旨としています。礼儀正しく立ち止まって挨拶できる職員に浸透が視えます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを傾聴し希望が通るよう自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、アクティビティー、入浴等できる限り、意に沿うことができるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる人は自分でしてもらい自己決定できない人には好みが反映できるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物に同行してもらったり、好みのものを聞いたりして、食事作りに反映させている。できる人には準備片付けをしてもらっている。	バランスシートを参考に「3品作る」と定めメニューを考え野菜は農協、肉は専門店とこだわりすべて手作りしています。食事が進まない時にもお粥やとろろなど「これがあれば食べられる」ものを備え、命を預かる職業として「食」に真摯に向き合っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活管理表にて把握し、支援、医師にも協力してもらっている、		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し自身でできる人には声かけしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活管理表にて排泄の記録をしリズムや健康状態の把握に努めている。出来るだけ自身にての排泄を促している。	トイレまで歩くことで筋力低下を防ぎ身体能力維持となるため歩行訓練を兼ねて援助し、全面的な介助が必要な人でも座位保持が可能な限りトイレでの排泄を支援しています。排泄の意思に気づき早めの誘導で失敗をなくしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立の工夫、状態に応じて乳酸飲料の摂取、体操等を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は個々の希望をできる限り取り入れている。	一日おきを目安に入浴しています。夏には涼しさを、冬には保湿を促す入浴剤を入れて長風呂が好きな人は時間いっぱい楽しむことから家族の話やライフレビューの貴重な時間となっています。皮膚観察できる機会として異常の早期発見に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠が取れるように工夫している。夜間の睡眠障害が起きないように散歩、アクティビティー等工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬の防止に努め、的確な服薬が出来る様支援すると共に症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、たたみ 生け花 花植え等その人の役割楽しみ等が持てる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、買い物、花見、イチゴ狩り、大きな公園への散歩 家族との外出等に心がけている。	天気の良い日には神社までの散策コースを楽しみます。小国神社への初詣に一年が始まり、フラワーパークへのお花見、花鳥園、秋桜、法人運動会と年間を通じて季節を感じられる外出が盛りだくさんです。家族と共に散歩や外食、買い物にも出かけています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	心身に影響が出るような人には所持してもらっていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて対応している。手紙も預かりポストに入れている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感、季節感風等を取り入れ又毎日の掃除は欠かさず気持ちよく生活できるよう努めている。	手入れの行き届いた山茶花とパンジーの植込みが建物を囲みます。写真はアルバムに収め、鯉のぼり、紫陽花、クリスマスといった時節ごとにテーマを統一して壁面を飾り付けています。食べこぼしが多いため「汚れたらすぐに」を徹底し一日2回次垂水での清掃を欠かしません。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	危険の無い限りは自由に動いてもらっている。個々の部屋で共に過ごしたり、一人で過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの好みのものを置き居心地良く生活できるように過ごしている。	クローゼット、洗面台、エアコン、カーテンが備え付けです。洋ダンスとベッドの持ち込みで自宅の寝室が再現され、見守るように添えられた花に家族の愛情が感じられます。床に畳を敷き詰めて布団の上げ下げを習慣としている人もあり、どの居室も温かい雰囲気に溢れています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー、補助棒を使用安全に気をつけている。又、人によっては入口に標をつけ自身が自立して過ごせるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102188		
法人名	株式会社アイケア		
事業所名	グループホームあいの街篠ヶ瀬(東 ユニット)		
所在地	静岡県浜松市東区篠ヶ瀬町345		
自己評価作成日	平成24年11月10日	評価結果市町村受理日	平成26年12月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=227

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成26年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年間で1~2人ぐらいいしかご利用者様が移動しません。元気で健康なご利用者様が多く 笑顔の多い施設です。季節を感じながら変化のある日々を暮していただけていると自負しております。春には春の夏には夏を、秋には秋をこれからもご提供していきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“この仕事は気づき、を信条として「小さな体調変化も見逃さない」「早期発見で早めの処置」に徹し、例えば朝夕2度の検温は体温チェックシートに運動し細心の注意を払っています。そのため平均介護度3.7という重度化の局面を迎えながら本年度は退去者もなく過ごせています。朝礼の申し送りは管理者も立ち会い、時にミニカンファレンスとなるほど「いつから」「その原因は何か」と分析が行われケアの連続性に繋がりました。入院して食事が摂れなくなった人に「私たちが何もしなければ命が尽きてしまう」とユニットの隔てなく全職員で向き合った成果が元気な笑顔に変わったことは何よりも職員の励みとなりました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて理念社是の唱和を毎日している。	事業所理念として「笑顔の見えるケア」を掲げています。利用者の課題解決のためにはユニットを超え全職員が集まって考えようとするチームワークがあり、「笑ってもらえるから頑張れる」という言葉に理念の反映が覗えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	畑に来ているお隣さんと挨拶したり散歩で近所を回ったり秋祭りを一緒にしています。	散歩に出ると「声でわかるよ」の言葉がかかり日常的な挨拶があります。単独外出にも「歩いてたよ」と連絡がもらえ助けられています。地域の祭りに合わせた事業所秋祭りも4年目を迎え、休憩所として屋台が立ち寄る中、本年も250余名で賑わいました。	「ささえあいポイント事業所」への登録によりボランティア受入れが拡がることを期待いたします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談にみえられた方に対応過去中学生の体験学習の受け入れをしたりして理解してもらったり発信したりしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者の状況又施設の状況を報告したり相談に乗ったりしていただいている。又得た情報を活用している。	区役所、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、家族をメンバーに定期開催しています。活動報告、行事食の試食会ほか介護保険情勢、虐待問題、独居世帯の見守りと多方面に渡り、それぞれの立場から地域の現状を話合っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に運営推進会議に出席いただき事業所の実績取り組みについて協力いただいている。	運営推進会議には毎回出席があり、更新手続きを含め都度窓口を訪ねています。介護相談員の来所もあり職員と異なる視点で利用者の様子を知らせてくれます。市の「ささえあいポイント事業所」に登録しボランティアを受入れています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を毎年行い又毎朝の朝礼時報告相談を受けその都度伝えていく。	研修を実施していますが、ミニカンファレンスでもある朝礼を重視し報告内容から具体的な指導をおこなっています。座位が不安定でありながら車椅子を自走したい人のリスクを検討し、動線を確認したり行動を予測することで自由な暮らしを支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議にて徹底し、その都度注意指導がある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて勉強、成年後見人を活用している人もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず重要事項、契約書の説明をし変更がある時には説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には生活の中で意見を聞き家族においては面会時又運営推進会議にて意見要望をお聞きしている。	行事への参加率が高く、また運営推進会議への出席もあり、「お任せします」との声が大多数です。重度化したことで小さな体調不良は必ず知らせています。「出来ることは自分でやらせてほしい」という意見もありケアプランに取入れています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々朝礼の中で意見提案を出し合っている。又月1回の会議にも要望等出している。	朝礼の申し送りは情報共有と意識統一のために時間をかけ、ユニットを超えた意見交換がなされています。排泄用品を見直して経済的負担を軽減したり、食事介助者が増えたことから柔軟性をもって休憩を取り協力し合っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。有給希望休の確認施設長会議にても習得させるよう連絡を受けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修または外部研修への参加日々の中で気が付いた事は伝えていく		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加、会社内外の同業者、介護事業者との交流見学をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には寄り添い傾聴する時間をより多く持ち本人が孤立しないよう又他の利用者と協調出来る様努める		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時必ず時間を作り要望または困難なことをお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時様子観察している。その都度職員間で共有、問題点があれば対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用者は信頼関係にあり、共に楽しみ、共に過ごし安心と安全な生活が出来る様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは良好な関係が築けるよう折に触れ話をしイベント、運営推進会議への参加に協力していただき共にご利用者を見守っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の部屋には馴染みのものを置き家族知人には積極的に施設の集まりに参加してもらっている。	家族に付き添われ美容院に通ったり買い物に出かける人、娘にカットしてもらう人もいます。在宅の頃からの新聞を購読したり好きな晩酌を続ける人もあり、思うように出来なくなった編み物も職員と毛糸の手触りを楽しむことでサポートしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常にご利用者全員の状態を把握し流動的に関わり合い支えあう関係が出来る様見守っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去退去した家族からもご紹介いただいたりお亡くなりになったりしたときにも、ご連絡もったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の中で希望等あればお聞きし共有する。又気があれば残し職員で共有してできる事は叶えてあげる。	「肉と魚、どちらにしますか」などAかBかの選択で、本人の意向をより明確にしています。体重が減少傾向にあった利用者により好みの食べ物を聞き出し、体調を取り戻した例もあります。言葉による把握が困難な場合でも表情や行動から判断しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシート、フェースシートにて聞き取ったことを常に確認し共有間違いがあれば正していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に変化に気づくと共に経過記録等に記載し共有現状に合ったサービスに変えていく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議の中で朝礼の中で変化に機敏に反応出来る様共有している。時に家族 医師とも相談協力いただき対応している。	半年ごとに見直していますが重度化により食欲が落ちたり体調変化も激しいため、都度精査しています。毎日の経過記録、生活管理表、入浴確認表を参考にケアマネージャーがプラン化し、全体会議と朝礼でも全利用者のカンファレンスがありモニタリングに繋げています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活管理表、経過記録への記載又医師からの助言等も共有し実践介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者がいつもベストの状態で見られるよう関係各署とも連絡を取っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の公園 町内のお宮 花畑 ボランティア周りの方々の情報をいただきながら活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医が多いが、受診希望のご利用者は馴染のかかりつけ医に行っている。	全体と個別、それぞれ毎月の往診があり、24時間相談ができ点滴にも駆けつけてもらえるため16名が協力医に変更しています。日常の健康チェックから気になることは早急に家族に伝えていきます。専門医は家族にお願いしていますが顕著な状態変化には職員も同行しています。	朝夕2度の検温は体温チェックシートに連動し細心の注意を払っています。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じ来ていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医利用が多いので常に情報が共有でき又早い段階で予防処置もとってもらえる。長い入院もあまりなく良い関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常に家族とは連絡を取り状況把握をしていたりしている。その中で本人に一番良い方法をチームにて支援していきたいと思っている。	重度化に際しては医療の必要性、家族の希望、職員負担を見据え事業所に対応できるか様々なリスクも考慮し、家族の判断を大切にしています。“食べられる、飲める、”ことを基準に心身状態を見極め、夜間でも管理者が電話対応してくれる心強さがあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡方法は常に研修しておりわかりやすい位置にはっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の下自治会の協力も得て防災火災訓練を定期的に行っている。	消防署立ち合いも含め年2回おこない、運営推進会議には地域の避難場所としても発信しています。外への避難では歩行困難や耳の遠い人をいかに効率よく安全に避難できるかが課題です。近隣からは有事には駆けつけてもらえる関係ができています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライバシー確保人格の尊重をし朝礼時確認共有している。	法人接遇研修を内部研修に落とし込んでいます。社会人一年生には「友達言葉は使わない」呼び方は「さん」付けを基本として「傾聴して相づちをうち、否定をしない」を旨としています。礼儀正しく立ち止まって挨拶できる職員に浸透が視えます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方には傾聴してできる事はしていただく。希望の表出を見逃さず希望に添える事は協力していく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴食事、アクティビティー起床散歩許す限り希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできる決定は自分でしていただきその人らしくおしゃれや身だしなみをしていただく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しくできるように意見を聞いたり試食していただく。	バランスシートを参考に「3品作る」と定めメニューを考え野菜は農協、肉は専門店とこだわりすべて手作りしています。食事が進まない時にもお粥やとろろなど「これがあれば食べられる」ものを備え、命を預かる職業として「食」に真摯に向き合っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	経過記録、生活管理表にて把握し勉強、個々にあった食事のご提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをして汚れ匂いがないようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活管理表にて健康状態を把握して排泄リズムを確認し支援している。	トイレまで歩くことで筋力低下を防ぎ身体能力維持となるため歩行訓練を兼ねて援助し、全面的な介助が必要な人でも座位保持が可能な限りトイレでの排泄を支援しています。排泄の意思に気づき早めの誘導で失敗をなくしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動を心がけ食事をキチンと取り排泄を促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日やタイミングは常に柔軟に対応している。場合によっては清拭、足浴をしている。	一日おきを目安に入浴しています。夏には涼しさを、冬には保湿を促す入浴剤を入れて長風呂が好きな人は時間いっぱい楽しむことから家族の話やライフレビューの貴重な時間となっています。皮膚観察できる機会として異常の早期発見に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に睡眠が取れるよう日中、アクティビティ、散歩を取り入れた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止に努め体調変化に注意し的確な服薬を支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、洗濯干し、たたみ、生け花、掃除その人の楽しみ、役割を持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	支援している。花見、イチゴ狩り ドライブ公園、大手スーパー四季を通し外出支援している。	天気の良い日には神社までの散策コースを楽しみます。小国神社への初詣に一年が始まり、フラワーパークへのお花見、花鳥園、秋桜、法人運動会と年間を通じて季節を感じられる外出が盛りだくさんです。家族と共に散歩や外食、買い物にも出かけています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	人によりお金の所持をしている。お出かけ時使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが電話をしたり手紙のやり取りをしておりはがきを用意したりポストに投函したりして支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓、天窓を開け風を入れたりエアコンを使って調節、又、季節の飾り物をして四季を感じてもらっています。	手入れの行き届いた山茶花とパンジーの植込みが建物を囲みます。写真はアルバムに収め、鯉のぼり、紫陽花、クリスマスといった時節ごとにテーマを統一して壁面を飾り付けています。食べこぼしが多いため「汚れたらすぐに」を徹底し一日2回次垂水での清掃を欠かしません。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に部屋に入ったり新聞を読んだりして、一人の時間を大事にしています。又2ユニット一緒に過ごすことも多く仲の良い人と団らんしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染のあるものを身近に置き自身の空間づくりをしている。又ご利用者、職員と一緒に季節を感じられるような工夫をしている。	クローゼット、洗面台、エアコン、カーテンが備え付けです。洋ダンスとベッドの持ち込みで自宅の寝室が再現され、見守るように添えられた花に家族の愛情が感じられます。床に畳を敷き詰めて布団の上げ下げを習慣としている人もあり、どの居室も温かい雰囲気に溢れています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー、補助棒を使用安全に気をつけている。又、人によっては入口に標をつけ自身が自立して過ごせるようにしている。		